

### 【開催概要】

- 日時：平成30年1月12日(金) 13:30～17:00
- 場所：愛媛大学 城北キャンパス内 南加記念ホール
- 主催：愛媛大学防災情報研究センター、愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会
- 後援：土木学会四国支部、インフラメンテナンス国民会議
- 出席者：  
(行政)国土交通省四国地方整備局、県及び地方公共団体  
(大学等)愛媛大学および関連他大学関係者  
愛媛メンテナンスエキスパート講座(ME)修了生  
(民間企業他)四国内の建設業、コンサルタント企業等

### ■ 主な議事

- 四国および愛媛県における社会基盤メンテナンスの現状と課題を説明 (四国地方整備局、愛媛県)
- インフラメンテナンスに係るこれまでの取り組みと課題整理および新技術活用の可能性を説明(土木研究所)
- 愛媛におけるインフラメンテナンスに関連する取組を紹介
  - ・インフラ維持管理の人材育成と新技術について(愛媛大学)
  - ・「愛媛MEの会」の活動の紹介(愛媛MEの会)

### 開会挨拶

森脇 亮 氏 (愛媛大学防災情報研究センター長)



- 今年で4年目を迎える「社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座」は、今回認定された31名を含めこれまで約100名の社会基盤維持管理に係るエキスパートを輩出してきた。
- 産官学が立場の違いを乗り越えてこの取り組みを持続していけるような仕掛けを皆さんと考えていきたい。

### 講演

野崎 智文 氏  
(四国地方整備局 企画部長)



- 四国ではインフラ老朽化、人口減少・高齢化、労働力不足といった社会現象が全国に先駆けて進んでいる。
- 「直轄診断」「修繕代行」「大規模修繕・更新補助事業」等の公的支援、MEの技術者資格登録やインフラメンテナンス国民会議の設立、研修の実施等の連携・人的支援等を行っている。

樋口 志朗 氏  
(愛媛県 土木部長)



- 県内のインフラ設備老朽化に対し、道路・橋梁・河川・港湾等各分野で長寿命化計画策定を進め、対策を急いでいる。
- インフラの点検・診断には高度な技術が必要であり、MEの活躍に期待している。国および大学と協力して進めたい。

### 特別講演

西川 和廣 氏 (国立研究開発法人 土木研究所 理事長)



**特別講演：4年目に入った  
インフラメンテナンス  
～見えてきた課題と新技  
術～**

- インフラメンテナンスを停滞させる本質的課題として、信頼に足る診断の不在が挙げられる。信頼される診断は論理的であることが不可欠。
- 点検(変状の把握と報告)と異なり、診断(損傷の原因特定と措置方法の提示)には総合的かつ高度な判断が求められる。診断士は医療における総合診療医に相当し、スキルアップには研修医制度が参考になる。
- 具体的な診断事例として、「RC床版の損傷」、「鋼橋の腐食」、「PC橋の塩害」を紹介。損傷が多様化しているものや、外観に現れない深刻な損傷を生じているケースがある。
- 点検・診断へのAI(人工知能)の活用といった新技術にも今後チャレンジしていく。

### 報告

全 邦釘 氏  
(愛媛大学大学院  
理工学研究科准教授)



- 愛媛MEは産官学の精力的な講師による、フィールドワークも充実したカリキュラム。MEはH28より国土交通省の技術者資格としても認定されている。
- インフラ長寿命化の観点で、俯瞰的なものの見方ができ、地域に愛着をもって取り組む技術者の育成に大学として努めていきたい。

國澤 豊 氏  
(愛媛MEの会)



- 愛媛MEは様々な立場、年齢、専門分野の人々が集い、一体となって受講できる貴重な場である。多様な現場経験や新たな知識を習得でき、講座の有効性を実感。
- フォローアップ研修や自主的な再受講等が行われており、認定後も継続して活動を行い、通常業務に活用していく。

### 会場の様子



### 情報交換会

吉井 稔雄 氏 (愛媛大学大学院 理工学研究科教授)



シンポジウム終了後には情報交換会を実施し、様々な組織からの参加者が意見交換を行うなど懇親を深め、今後のインフラメンテナンスに資する人脈構築の機会となりました。

### 閉会挨拶

矢田部 龍一 氏 (愛媛大学防災情報研究センター特命教授)



- 南海トラフ地震が最大課題の四国において、対応できる人材の育成がきわめて重要。
- 愛媛MEの取り組みにより官民の立場を超えて共に働ける人がここから巣立つことを期待する。
- 強い決意をもって今行動してほしい。

